

〔随筆・サロン〕

認知機能検査

大橋秀雄*

75才以上の高齢ドライバーは、運転免許更新のたびに認知機能検査と高齢者講習を義務づけられる。認知機能検査の結果によって、記憶力・判断力に問題無い(青)、少し低くなっている(黄)、低くなっている(ピンク)のいずれかに振り分けられる。青組は2時間、黄組は3時間の高齢者講習を経て更新できるが、ピンク組は医師の診断を受け、その結果次第で更新の可否が判断される。

認知機能検査は、20人ほどが教室で一緒に受験する筆記テストで、30分以内で終わる。その日の暦年、月、日、曜日、時間などを記入させる見当識検査、自分で書いた時計の文字盤に指定された時刻の長針、短針を書き込む時計描写検査、この二つはさほど難しいことはないだろう。

私にとって心配の種は“てがかり再生”(短期記憶力検査)だ。この試験では、例えばバラをスクリーンに投影して、「これは花のバラです」と皆に復唱させる。バラが名前で、花は分類、後で思い出す“てがかり”となる。これが全部で16のイラスト(白黒)が投影されるまで繰り返される。それが終わると、採点とは無関係な意

地悪な課題が待っている。数字が不規則に印刷された用紙を前に、例えば1と4を斜線でマークしなさいと指示される。早く沢山マークしようと自然と熱中するうちに、前見たイラストから気を外らせようという魂胆である。終わりの指示で筆を置くと、記憶が薄れてしまったと痛感する。

先ず白紙の回答用紙に、思い出せるイラストの名前を、バラ、ライオン、…と次々に記入する。しばらくすると、次の回答用紙を見るよう指示される。そこには花、昆虫、鳥等々16の分類が印刷されており、それを“てがかり”に再度思い出してイラスト名を記入する。採点に当たっては、てがかり無しの正解は2点、有りでは1点が与えられる。

試験が終わると直ちに採点に回され、待っているうちに3色何れかの結果通知書を渡される。採点は、見当識17%、時計描写21%、てがかり再生62%の重みで配分され、全てを正解すると100点が与えられる。76点以上が青、それ以下49点までが黄、49点未満がピンクになる。配点の重みからも、イラストの記憶がいちばん成績に響いてくる。

認知機能検査の詳細は、イラストから採点法まで全て警察庁のホームページ^(注1)に公開されており、長年変わりがないようだ。ちなみに、

*東京大学 工学院大学名誉教授
E-mail : PGA02322@nifty.com
原稿受付日 令和3年3月16日

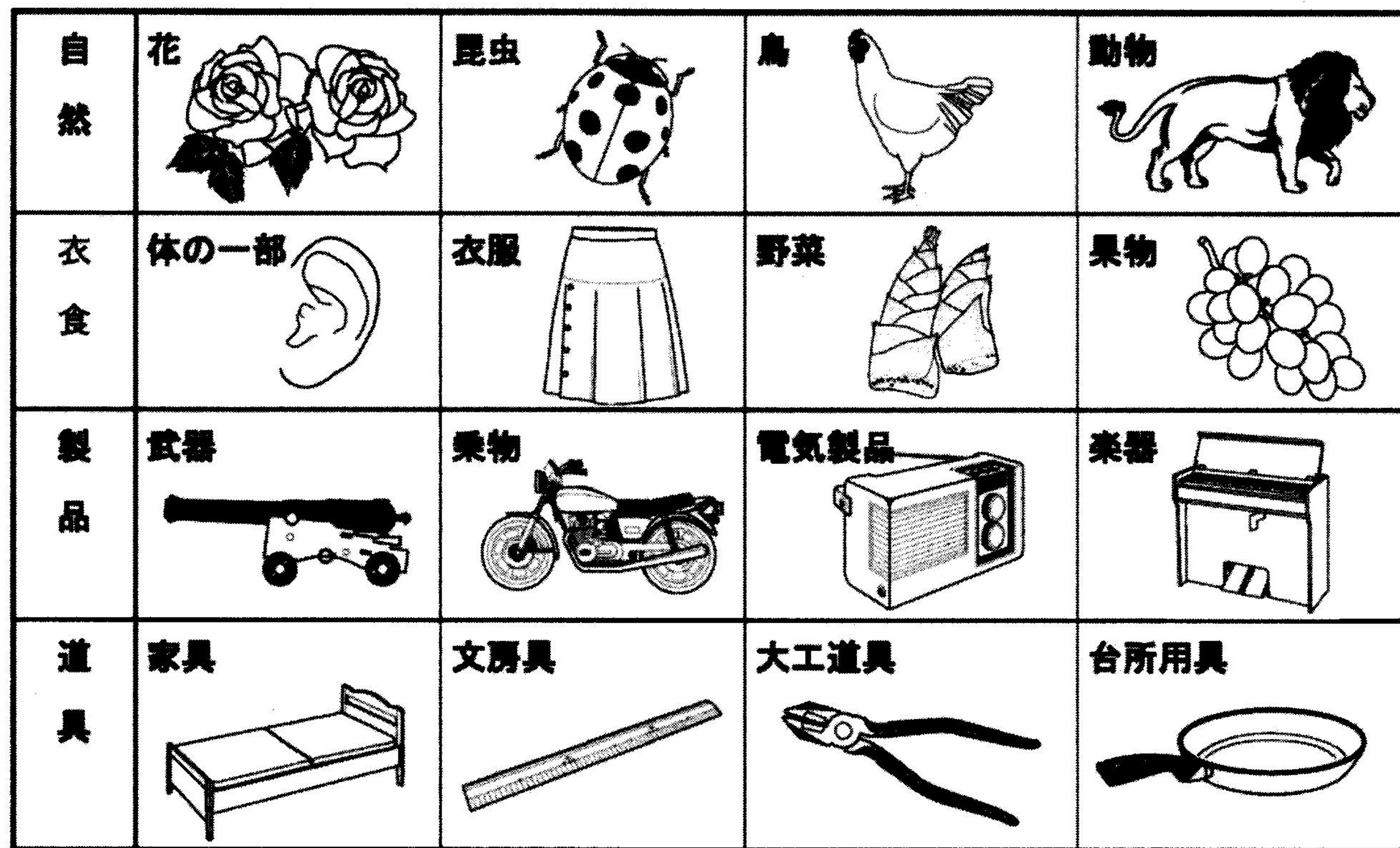


Fig. 1 イラストの例

イラストにはABCDの四つのパターンがあり、16の分類は全パターン共通である。図に示した例は、Aパターンのものである。全部で $4 \times 16 = 64$ のイラストがあり、どのパターンが出題されるか、受ける方は予想できない。

私はこれまで、5回認知機能検査を受け、連続100点だった。それは事前に受験勉強をして、64のイラストを丸暗記したせいに過ぎない。最初の一つのイラストを見るだけで、それはどのパターンに属するかすぐ分かり、残りのイラストは見なくても聞かなくても全部答えられる。問題は覚え方の工夫になる。例えば武器という分類では、A：大砲、B：戦車、C：機関銃、D：刀となっているので、強から弱へと変化の特徴を覚えるようにする。このような私流の覚え方一覧表^(注2)を公開しているので、興味のあ

る方はご覧下さい。覚え方については、様々な工夫を凝らしている方が大勢いる。

ご紹介した方法で受験勉強するようになってから、検査日を前に落第の悪夢にうなされたことがなくなった。まだ若いと思っていても、やがてその日が訪れる。この小文が、読者がそれぞれに対策を考えるうえにお役に立てば嬉しい限りである。

注1：https://www.npa.go.jp/policies/application/license_renewal/ninchi.html

注2：<http://hideo3.on.coocan.jp/docs/demcheck.pdf>